



輝き人生

このコーナーではきらりと輝きながら活躍する市民を紹介します。

墨彩画を通じて広げる 人のつながり

みやざき 宮崎 よしはる 良治さん (両尾町)



地域のお寺の本堂改修時に、宮崎さんが寄贈した墨彩画(各天井画)

水墨画の技法をもとに墨で描かれた絵に、顔彩という絵の具を使って淡い色彩を加えていく墨彩画。筆に想いを込めて、真剣な眼差しで作品に取り組むのは、今年71歳を迎えた日本画家(墨彩画系)の宮崎良治(雅号は宮崎観峰)さん。これまでに数多くの作品を手掛け傑作を残してきました。現在は、亀山市内や四日市市などで、墨彩画教室の講師を務め、受講生への指導や墨彩画の楽しみを教えます。

一画家になるきっかけは？

「絵を描くのが大好きで、小学生の頃は、教科書が真っ黒になるほど、授業を受ける生徒の後ろ姿や窓越しの風景を落書きしていました。その後、墨彩画に出会い魅せら

れ、毎日就寝前に練習していたときもありました。そして、良き師匠に出会い、丁寧に指導いただいたことが画家になる大きな原動力となりました。」

一こだわりは？

「墨彩画の特徴である淡い色を重ね塗る技法に、特にこだわっています。淡い質感を活かしながら、いかに立体、奥行き、風情などを表現できるかを追求しています。」

一大変なところは？

「墨彩画は、墨や色彩の濃淡の表現が難しく、濃い所から淡い所までムラなく伸ばしていく技法が求められます。これは、(和)紙に直接塗りこんで調整するのではなく、“筆のなかへ描く”と言いますが、筆先から淡墨・中墨・濃墨と容皿で

調整した上で描いていくことになり、大変気を使います。」

一うれしいことは？

「絵仲間や受講生など、絵を通じて多くの人と出会い、良い人間関係を構築することができました。また、絵を指導するなかで、この歳になっても気付かされることもあり、私自身の画技が成長していくのも、うれしく思います。」

一これからは？

「喜寿(77歳)や米寿(88歳)の記念に、画廊で個展を開催できればと夢を持っており、作品制作の計画中です。また、地域で絵を通じて後世に残せるものを作ることができればと願っており、その時に向けて、日々の制作活動に励みたいと思います。」

図書館の本棚から 市立図書館 (☎82-0542)

～新着だより～



『京都ごほん日記』
いしいしんじ／著
河出書房新社 (2014年1月刊)
朝から創作。昼を過ぎれば、飲んで食べて唄って踊り、神社に本屋にレコード屋、錦やメトロをブラブラし、全国各地を飛び回る。鯖寿司、焼き鳥、お好み焼き、ビールに焼酎、さあ乾杯！



『にっこりが伝わるふせん習慣の始めかた』 YUZUKO／著
KADOKAWA メディアファクトリー (2012年9月刊)
おみやげを渡すとき、借りたものを返すとき、職場での書類の提出など、さりげないやり取りをする時こそ、ふせんの出番。会社で、自宅で、かわいくて便利なふせん習慣、始めませんか？

小説

- あの人に暮らす四人の女／三浦しをん
- 冥途あり／長野まゆみ
- 表参道・リドルデンタルクリニック／七尾与史
- 掲載禁止／長江俊和
- たすけて、おとうさん／大岡玲

児童

- としょかんへいこう／斉藤洋
- けん玉学／窪田保
- ペンギンは、ぼくのネコ／ホリー・ウェップ
- 丸天井の下の「ワーオ！」／今井恭子
- 電車でノリノリ／新井けいこ

その他

- 老後破産／NHKスペシャル取材班
- わたしがラクするモノ選び／Emi
- いつも心に立川談志／立川談四楼
- 高峰秀子の人生相談／高峰秀子
- 苔ボトル／佐々木浩之

ほか578冊